

報道関係各位

2005年10月5日

アルプス システム インテグレーション株式会社

ALSI 産学連携によるプロジェクト ネットワーク型学習評価共同研究(略称:e-as [イーアス])をスタート - 10月5日より、実践活動の記録を掲載した Web サイトをオープン -

アルプス システム インテグレーション株式会社(本社:東京都大田区、代表取締役社長:大喜多 晃、資本金:2億5000万円、以下 ALSI [アルシー])は、平成14年度に取り組んだEスクエア・アドバンス⁽¹⁾「携帯情報端末を活用したモバイル学習環境の実現」の次期展開プロジェクトとして、「ネットワーク型学習評価共同研究プロジェクト(e-assessment project; 略称 e-as)」を2005年9月よりスタートさせ、その授業実践の記録や詳細情報を2005年10月5日よりWebサイトにて公開いたします。「e-as」は、Eスクエア・アドバンス同様、独立行政法人 メディア教育開発センター 研究開発部 堀田龍也助教授を代表として迎え、現職の小中学校の先生方をメンバーとして実践研究を中心とした体制をとると共に、ここで得た研究成果を、ALSI のラボマネジメントシステム「InterCLASS(インタークラス)」の製品開発に活かし、今後も学校現場のニーズに合わせた製品の提供を行ってまいります。

1: IT教育改善モデル開発・普及事業。経済産業省の委託事業であり、全国の学校がITを活用した授業を実践するための支援プロジェクト。

プロジェクト名称 : ネットワーク型学習評価共同研究プロジェクト (e-assessment project ; 略称 e-as)

プロジェクト活動期間 : 2005年9月~2006年3月31日

プロジェクト体制 : プロジェクト代表 独立行政法人 メディア教育開発センター 研究開発部 堀田龍也 助教授
プロジェクトメンバー 全国小中学校の現職の教員 5名
技術開発・サポート アルプス システム インテグレーション株式会社
事務局 株式会社 旺文社デジタルインスティテュート

Web サイト公開日 : 2005年10月5日

URL : <http://www.eduplan-net.com/e-as/index.html>

プロジェクトの目的

e-Japan 重点計画に盛り込まれた「学校教育の情報化」⁽²⁾計画にあわせて各学校にIT環境が整備されたのに伴い、教育におけるIT活用の主流は、パソコン教室から普通教室での活用に移行してきました。

しかし、ほぼ全ての小中学校におけるパソコン教室が導入されている一方で、普通教室における校内ネットワークの導入は、小学校31.1%、中学校32.0%にとどまっている⁽³⁾という結果も出ており、今後改めてパソコン教室の効果的な活用方法が注目されていくと考えられます。

また、基礎学力の定着・学力保証の問題がクローズアップされている中で、ITを活用した学習評価についても、これまで、一定の研究が蓄積されており、教育現場におけるITの重要性はますます高まっているといえます。

そこでALSIは、このような市場状況を鑑み、小中学校におけるパソコン教室を活用した学習方法を検討すると共に、これまでに蓄積されてきた研究成果を視野に入れながら、パソコン教室内におけるネットワークを活用した学習評価に焦点をあてた、産学連携による実践研究に取り組んでまいります。

2: 首相官邸 IT戦略本部 <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/>

3: 文部科学省「教育用コンピュータの整備、インターネット接続(平成17年度)」http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/04120301.htm

プロジェクトの成果物

パソコン教室内ネットワークの活用による学習評価において、その強みを明確にし、

- (1)何を評価すべきか
- (2)どう評価すべきか
- (3)そのために教師は何をすべきか
- (4)そのためのシステムはどうあるべきか

の洗い出しを行ないます。その成果は、ALSI のラボマネジメントシステム「InterCLASS」の製品改善の中で反映させてまいります。

実践活動の記録を掲載した Web サイトをオープン

プロジェクトの実践活動の記録を 2005 年 10 月 5 日より下記の URL にて公開いたします。

<http://www.eduplan-net.com/e-as/index.htm>

【掲載情報】

- プロジェクトの計画など（プロジェクト概要）
- 授業実践の記録（ミニレポート）
- 研究会の記録（プロジェクト会議）
- など



プロジェクト代表 堀田 龍也 助教授のコメント

「学習評価における IT 化の可能性に向けて」

ネットワーク型学習評価共同研究プロジェクト代表
独立行政法人メディア教育開発センター 堀田 龍也 助教授

「学習評価が IT 化されると、便利ですね」

そんな単純なこととしては、当然、考えていません。

そもそも学習評価とは、指導における「次の一手」を、教員が意思決定するために学習者の状態を把握するものです。つまり、教員の立場から学習評価を見ると、「直前の指導方法を“振り返り”、その後の指導方法の“最適化につなげる”という効果を生み出すもの」でなければなりません。

では、学習評価を IT 化するメリットとは、どこにあるのでしょうか？

今回、我々「ネットワーク型学習評価共同研究プロジェクト」では、平成 17 年度の課題として、まず、パソコン教室内のネットワークを用いた学習評価の強みとは何か、何をどのように評価していくべきか、ということについて、「ラボマネジメントシステム「InterCLASS」を用いた 授業実践を交えながら、議論を重ねていきます。

既に先日、プロジェクトの方向性及び仮説を考える第 1 回目の会議が、3 時間にも渡って行われました。学習評価における IT 化の可能性について、研究者・教員・企業が、産学連携する一平成 14 年度に旺文社 DI と取り組んだ「携帯情報端末を活用したモバイル学習環境の実現プロジェクト(E スクエア・アドバンス)」を髣髴とさせる、熱い取り組みの始まりです。



e-as Assessment Tool ラボマネジメントシステム「InterCLASS」製品概要

(1) 学習評価システム：

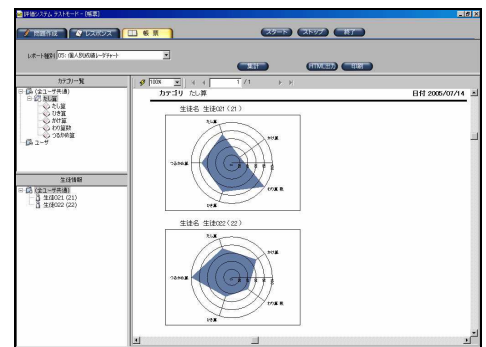
授業において学習者の理解度や到達度を確認する目的で小テストやアンケート、投票などを実施することができます。結果はレーダーチャートで表示でき、学習者の理解度や到達度をしっかり把握することが可能なため、今後の授業のプラン作りなどに役立ちます。

(2) デスクトップ録画機能：

先生が何度も見せたい操作を録画して、繰り返し再生することができます。

(3) 円滑な授業運営を支援するユーザビリティに優れた操作画面

(4) システム保護機能の組み込み



レーダーチャート表示画面

記載されている会社名及び商品名は各社の商標もしくは登録商標です。

【このリリースに関するお問い合わせ・取材受付先】

アルプス システム インテグレーション株式会社 URL: <http://www.alsi.co.jp/>
 〒145-0067 東京都大田区雪谷大塚町 1-7 TEL: (03)5499-8045 FAX: (03)3726-7050
 パッケージソリューション部 マーケティンググループ 広報担当: 桑野 宏子 (kuwano@alsi.co.jp)